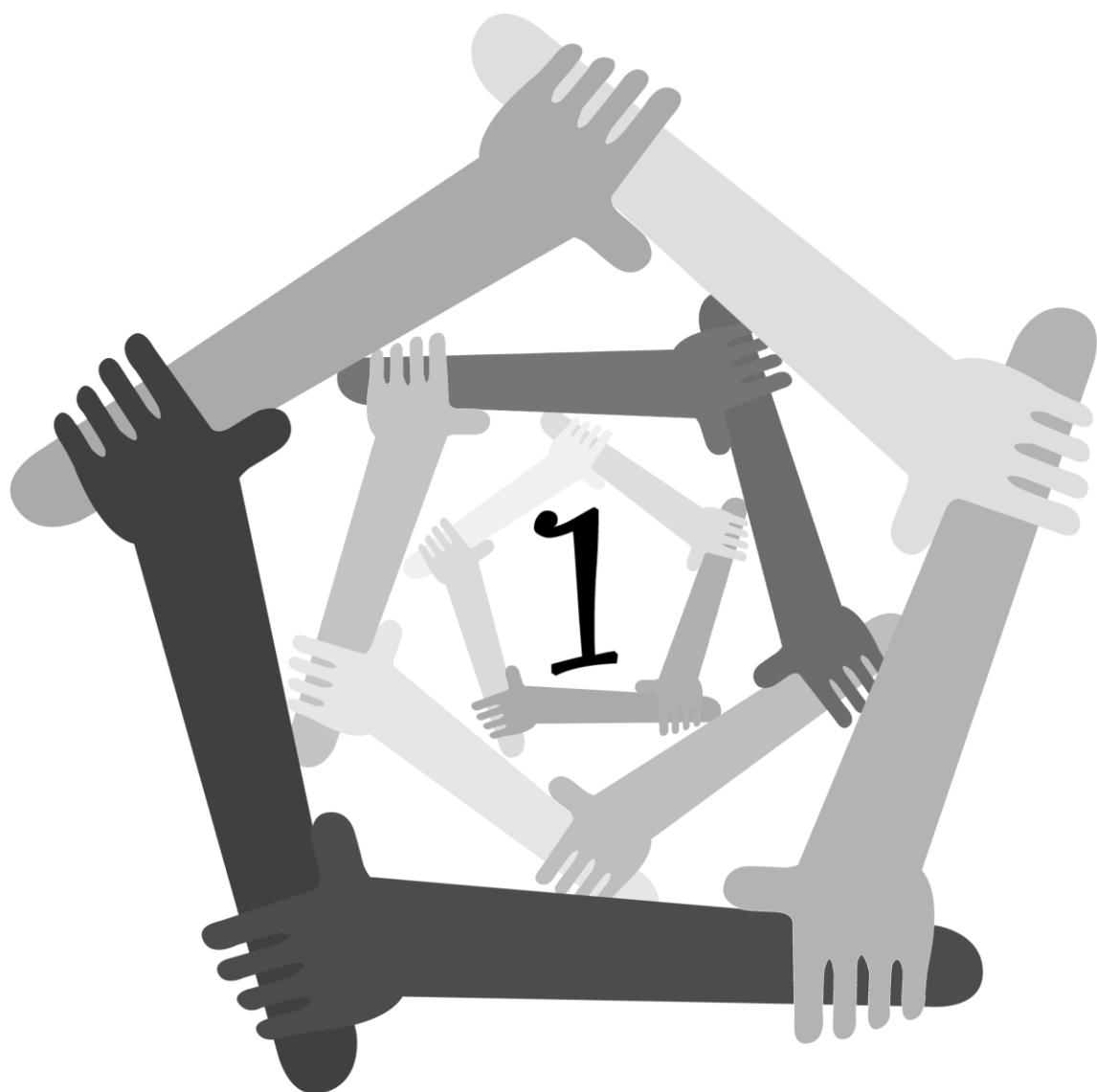


第6回ようざん事例発表会

「事業所自慢」



平成26年7月28日

第6回ようざん事例発表会 その1

～日々最高の「楽しさ」と「おもてなし」～

デイサービスようざん並榎 大澤浩芳 p.2

「ぐるりに乗って、どこまでも、どこまでも」 ドライブミニツアーと社会資源の活用

スーパーデイようざん飯塚 榊田 敏明 p.6

信頼から生まれるチームワーク

居宅介護支援事業所ようざん 清水 克哉 p.9

～レクリエーション、個性を活かして～

ケアサポートセンターようざん並榎 矢田裕司 p.12

ショートステイようざん並榎スタッフは勉強家です。

ショートステイようざん並榎はピック病の介護が得意です。

ショートステイようざん並榎 堀江 一彦 p.14

グループホームようざんの「いいね！」

グループホームようざん 新井 真美 p.17

あなたひとりだけのために

スーパーデイようざん双葉 榊田千恵子 p.20

「ここで寝るんだあ～」

～いつまでも二人で、サテライトを利用しながら自宅で過ごす～

ケアサポートセンターようざん中居 関 ひかり p.23

「地域交流」と「異業種との連携」

ケアサポートセンターようざん双葉 小坂橋貴之 p.27

利用者様から学ぶこと

訪問介護 ぽから 佐藤 靖典 p.30

～日々最高の「楽しさ」と「おもてなし」～

デイサービスようざん並榎

大澤浩芳

【はじめに】

現在高崎市にはデイサービスが何事業所あるかご存知でしょうか？なんと150もの事業所があるのです。数あるデイサービスの中で、利用者様から選ばれ、信頼されるデイサービスとなる為には、サービスの中での付加価値を付けて他事業所との差別化を図っていかなくては生き残れません。私達に出来る付加価値とは何かを追求した結果、「楽しさ」と「おもてなし」この2つの重要性に気付きました。デイサービスで介護職が介護するだけではプロの仕事とは言えません。その上の、期待を超えるサービスを提供してこそプロフェッショナルと言えます。それでは、デイサービス並榎のプロフェッショナルな「楽しさ」と「おもてなし」をご紹介致します。

【プロフェッショナル1「楽しさ」】

デイサービスようざん並榎では、要支援1～要介護5までの介護認定を受けた方々がご利用されています。利用者様の状態は様々であり、麻痺のある人、難聴の人、認知症を患っている人、基礎体力のある人、ない人など、千差万別です。また、個人の持つ性格「負けず嫌い」「平和主義」なども、レクリエーションを行う上で無視はできない大切な情報です。さらに、利用者の状態は日によって違いますので、来所されてからの様子などすべてがレクリエーションを楽しく安全に行うための重要な情報となるのです。私達デイサービスようざん並榎の職員は、その方々全てに、少しでも多くの喜びと楽しさを提供できるように日々努力を惜しまずレクリエーションを実践しています。まさにこの努力が、レクリエーションのプロフェッショナルであるプライドです。

これから私達の追求した自慢のレクリエーションを盛り上げる為の工夫やこだわりを紹介していきます。

☆楽しさを引き出す仕掛け

①予告

- ・入浴中や送迎中に声掛けによる予告を行い気分の高揚を図る。
- ・環境作り(ポスターによる宣伝、ホールの飾り付け等)

②小道具

レクリエーションに合ったBGMを流す。

職員と参加者の多種多彩のメイクやコスチューム

③面白いネーミング

- ・レクリエーションに付ける題名

④通貨の活用

- ・勝利チームや高得点を出した方に配布
- ・特別賞(プロ目賞やラッキー7賞など)を出した方に配布

下の表は先月 H26年6月に実施したレクリエーション一覧です。

デイサービスようざん並複 6月 レクリエーション予定表						
時間割振	月 2	火 3	水 4	木 5	金 6	土 7
午前	タオル体操	筒体操	輪投げの輪体操	新聞紙体操	お手玉体操	旗揚げ体操
午後	風船ゴルフ	狙え！ストラックナイン	DVD観賞	慰問	ブーメランゲーム	けつとぼしカーリング
15:30以降	歌レク・歌詞当てゲーム	人生ゲーム	ことわざジェスチャー	リアル野球盤	フィーリングゲーム	手さぐりゲーム
	9	10	11	12	13	14
午前	空き缶体操	新聞紙体操	旗揚げ体操	タオル体操	輪投げの輪体操	お手玉体操
午後	ハンド&キックボーリング	テーブルホッケー	タイムセール詰め放題	けつとぼしカーリング	小運動会	夏のようざんサッカーCUP
15:30以降	コップシューティング	何が通ったかな？	女優さんゲーム	制作	歌レク・歌詞当てゲーム	カラオケ
	16	17	18	19	20	21
午前	筒体操	お手玉体操	空き缶体操	旗揚げ体操	新聞紙体操	タオル体操
午後	アイスカーリング	バランスゲーム	ようざん商店	避難訓練	キックボーリング	銭形平次ゲーム
15:30以降	連想ゲーム	制作	ゲートボール	歌レク・歌詞当てゲーム	叩いてかぶって(職員)	テーブルゲーム
	23	24	25	26	27	28
午前	お手玉体操	旗揚げ体操	新聞紙体操	筒体操	空き缶体操	輪投げの輪体操
午後	慰問	とぼせ！！イス押しゲーム	スーパーボール飛ばし	慰問	愛のぐらぐら橋渡しゲーム	おかみさんリレー
15:30以降	尻相撲(職員)	歌レク・歌詞当てゲーム	テーブルホッケー	色分けゲーム	ピンポン玉入れ	制作
	30					
午前	新聞紙体操					
午後	紙飛行機ゲーム					
15:30以降	三角積み					

上記にある①～④の事を活用したレクリエーションを3つ紹介したいと思います。

- ・おかみさんリレー・・・2 チームに別れておたまやカップを使用し隣に物を渡してどちらが早いかを競うゲーム
- ・銭形平次ゲーム・・・指定されたお手玉の個数と大型の手作り和同開珎を投げてもらい泥棒を倒すゲーム
- ・紙飛行機ゲーム・・・空港をいくつか作り指定された場所から紙飛行機を飛ばして何機着陸することができるかを競うゲーム

【プロフェッショナルその2「おもてなし」】

「おもてなし」は日本人の心・・・皆さんも一回は聞いたことあるのではないのでしょうか？「おもてなし」と似た意味で「ホスピタリティ」があります。「ホスピタリティ」の意味には“喜びの共有”があり、これは介護職で例えるならば利用者と職員の間にも生まれるものではないのでしょうか？私達の仕事は

「究極のサービス業」であると同時に「究極のホスピタリティ業」です。ご利用者の希望や思い、好みは千差万別で常に接遇に関しても臨機応変にその人ごとに対応しなければいけません。

それでは、実際に行っているプロフェッショナルな「おもてなし」。デイサービスようざん並榎の心を紹介します。

☆プロフェッショナルの「おもてなし」

①ドリンクメニュー表

利用者様が飲みたいときに飲みたいものを提供できるよう配置

※全事業所に徹底された職員紹介入りのドリンクメニュー表はデイサービスから生み出されたアイデアです

②イベント湯

・炭湯、米ぬか湯、ハーブ湯、桃の葉、ひのき湯、花湯、ゆず湯、薬湯等の季節を感じられるお風呂の提供

・各イベント湯の際、効能の掲示

③慰問の方へのおもてなし術

・お礼の手紙や写真をプレゼント

④言葉づかい

・吉岡所長直々の丁寧な言葉遣いの徹底

⑤挨拶

・お見送りは全員で最敬礼

上記の①～⑤では必ず職員の最高の笑顔付き

【最後に】

今回紹介させて頂いたことはほんの一部に過ぎません。レクリエーションという言葉は世間では「遊び」というイメージが強いかもしれませんが、実は人の人生を大きく変える事の出来る可能性を持っている事に気付いた事例があります。

利用者の A さん97歳は、契約時に死ぬことばかり考え「そんな施設にお世話になるくらいなら死んだ方がましだ」「自分がみじめで情けない」などの悲観的な発言が多く、デイサービスを利用することに強い抵抗が見られました。そんな A さんがデイサービスのレクリエーションを体験された後、満面の笑みで

「こんないい所だと思わなかった」「生きていて本当に良かった」

「嫁が私を厄介者扱いして施設に追いやられたと思ったけど、こんな面白い場所を見つけてくれた嫁に感謝しなきゃ」

と、手を合わせ何度も拝んでくださいました。畑仕事が生きがいであった A さんが、今はそれ以上の生きがいを見つけました。現在では週2回から週5回に利用が増え、かけがえのない仲間と最高の

時間を過ごされています。

私達の仕事はすべての利用者さんに満足して頂くことです。大切な利用者さんを楽しく幸せな気持ちにするためには「楽しさ」と「おもてなし」が全職員に徹底していなければならないので、よりチームワークを高めています。そのための努力は惜しみません。

「並榎のデイサービスに通えて最高に楽しくて幸せだ」と感じていただける、その瞬間の為に、私たちは全力で頑張れるのです。

「ぐるりんに乗って、どこまでも、どこまでも」

スーパーデイようざん飯塚

榎田 敏明

はじめに

2年前、スーパーデイようざん飯塚では、人事の大異動があり、新管理者のもと新人職員が多く、うまく利用者様に喜んで頂けるレクリエーションがなかなか出来なかった。また利用者様の帰宅願望も多く、対応に悪戦苦闘し、ドライブレクリエーションなどをほぼ毎日行い対応していた。

ドライブレクリエーションを続けていく中で、利用者様の表情が良くなっていき、会話が弾むようになり、本当に楽しんで頂いていることが分かった。スーパーデイようざん飯塚の外出レクリエーションの展開についてこれから紹介する。

経緯・経過

ドライブレクリエーションを繰り返して行くうちに、高崎市内の名所や旧跡、トイレの有無が確認できるようになる。季節に応じた花や木々なども少しずつ分かるようになり、ドライブ場所の範囲を広げる事が出来る。また、名所めぐりや桜ツアー、梨狩りなどの企画も順次取り入れる。人と接する事や自然とふれあう事で、脳の活性化をはかり、身体機能の低下予防にも繋がるよう、車から降りて行動できるように計画を立てる。認知症の方の心と体を刺激する「ミニツアー」へと移行していく。また、様々なお勧めドライブ先をメニュー化し、利用者様にいきたい場所を選んで頂きながら実行していく。

目的

このドライブミニツアーを行っていく中で、違ったアプローチの外出レクが出来るのではないかとこの意見が出てきた。適切な支援があればバスや電車などを使って、利用者様の思い出のある場所に行けるのではないかと話し合った。スーパーデイようざん飯塚では市内循環バスの「ぐるりん」を使って、縁のある所に出かける計画をたてる。その事によって利用者様の若かった時の記憶などを思い出して頂く。

取り組み内容

① 象利用者様

生活の中でバスや電車などの利用の有無、過去に旅行など良くされていたかなど情報を収集し利用者様2名をお選びする。

A様(女性): 上信電鉄の事務に勤めていた時期がありバスにも縁がある。

B様(女性): 昔から旅行が好きで良く出掛けていた。

②ぐるりんバスルート選定

対象利用者様をアセスメントしていく中で、共に高崎の街中に思い出があることが分かる。A様はご結婚後高崎に移って自営業を営み、取引をしている銀行や業者との間を行き来していた。また高崎駅も良く利用されていた。ぐるりんのお話をしてみると、「いつも、ここに来て楽しい所に連れて行ってもらえるけど、バスに乗るのなんて何十年ぶりだろう。楽しみだねえ」と心待ちにされている。

B様は高崎駅近くの本屋を営んでおり、「昔は高崎の第十五連隊に本などを納めていたのよ」とよく話されている。また、スズランや高島屋など良く買い物に出かけている。駅周辺には詳しい利用者様である。ぐるりんの話をしてみると、「高校に通っていたころは、仲良し3人娘で先生に見つからない様に良く行っていた喫茶店があったのよ。どうなっているのかしらねえ。楽しみだわ」と期待されている。

そこで2人の共通点である街中を通る「都心環状線」を選択する。高崎西口を出発しモントレー前→高島屋北入口→慈光通り→大手前連雀町→スズラン前→音楽センター前→市役所→高崎公園前→高崎総合医療センター→もてなし広場前→総合保健センター・中央図書館→NTT前→東京電力・スズラン入口→本店タカハシ前→白銀町→通町→旭町→高島屋前→八島町→高崎駅西口に戻るルートである。

③日程及び時間設定

バス会社に連絡し、一般の方々のご迷惑にならない様に空いている時間帯を伺った。対象利用者様お二人の来所日を踏まえ日曜日の13時20分発とし、当日の便の運転手に前もって連絡してもらうことになった。利用者様の体力や安全を考え、バスの停留所までは車での送迎とする。

バスに乗られた時のご様子

A様:お迎えに伺うとお出かけ用の靴を履いておられ、お洋服もおしゃれして待っていて下さった。出発点である高崎駅西口のバス停に着き、バスを待つ間近隣の建物や道などのぞき込み若い時と違う高崎駅周辺の様子を物珍しく眺めている。駅前にある証券会社の入口が反対側にあったなど昔を思い出されている様子である。バスに乗る時も車内を見渡しながらか乗られている。出発して高島屋前まで行くと「ここには銀行があったはず。」「ここには～がある。」「ここはこうなっちゃんだ。」などと話される。また、ビルの高さにも驚かれ、「私たちがいたころはせいぜい3階建てぐらいだったのにねえ」としきりに感心されていた。

B様:バス停のベンチに座り建物やその周囲を見渡し、高崎駅の変わり様にびっくりされている。バスに乗り高島屋を通過すると「私はいつも高島屋でお洋服を買ったり、美味しいものをお取り寄せしたりしていたのよ」と話されていたが、だんだん言葉数が少なくなっている。伺ってみると「高崎は若い頃から比べるとだいぶ変わったけど、街中が寂れちゃったよね。人通りも少なくなったし。商店街もシャッターが閉まっている店が多く本当にさびしいよね」とおっしゃった。行きつけの喫茶店前を通り過ぎると「まだやってたのね」と笑顔を取り戻し、音楽センターを通過すると「ここでよく

長唄やコーラスの発表会をしたのよ。懐かしいわねえ」と思い出を話して下さった。

結果・考察

社会資源を活用していく中で、バス会社の方と連携が取れたことにより、無事ぐるりんバスツアーを行うことが出来た。今回は ADL が比較的高い人を選ばせて頂いたが、参加できなかった方々にもこのような外出レクリエーションを展開する自信に繋がった。

利用者様にとっては自家用車とは違いバスの中は広く開放感があり窓も大きいので、お二人とも久しぶりのバスから見る風景を新鮮に感じていただいていた様子であった。そして、昔の事を懐かしみながらも今の高崎市の様子に驚かれたようであった。

A様は、普段外出しづらい状況もあり、「バスに乗せてもらえるなんて」と大変喜ばれていた。B様は「私がいると乗り降りの邪魔になっちゃうかしら」と周りを気遣う様子が有ったり、高崎の変容に驚きや寂しさを感じたりしながらも、青春時代を懐かしがっておられた。利用者様それぞれの考えや反応があり、今後個別ケアをしていく中での職員全体の気付きとなった。

終わりに

今回、アセスメントを深く取り、利用者様の思いや歩まれてきた人生などがわかり、思い出に沿ったコース設定ができた。また、久しぶりにバスに乗るという共通体験で、利用者様や職員も会話が弾み、お互いが近く感じられたり、新しい一面を発見したりすることが出来た。社会資源を活用することで、職員の一步上のレクリエーションに対する自信につながり、より利用者様本位のケアが出来るのではと感じた。

利用者様は「自分でできる事は自分でしたい」「こういうことがしてみたい」など思っているが、なかなかできないこともある。その思いをくみ取り、適切な支援を行う事で利用者様が「できた」「よかった」と満足が得られるようにしていきたい。それを、継続的に行うためにスーパーデイようざん飯塚はどこまでも、どこまでも邁進していく。

信頼から生まれるチームワーク

居宅介護支援事業所ようざん

清水 克哉

はじめに

居宅介護支援事業所とは？

ケアマネージャー(介護支援専門員)を配置している事業者です。要介護認定の申請代行やケアプランの作成を依頼するときの窓口となり、サービス事業者との連絡・調整をします。

ようざんの居宅介護支援事業所は、現在9名の介護支援専門員がいます。一人のケアマネが要介護者35名。要支援者8名を担当できます。ケアマネが個々に担当ケースを受け持つため、担当のケアマネがそれぞれの家庭を訪問して相談を受けます。時には処遇困難なケースもあり、それぞれに悩みを抱えてしまうこともあります。

居宅ようざんではケアマネが一人で悩まないように週1回定期的に全員で処遇困難ケースに対しての具体的な対応の検討をしています。これが事例検討会です。ここでチームワークが生かされます。悩みや対応の仕方をチーム全体で考え、状況を共有しているため、個々の不安や悩みを一人で抱え込まずに業務に当たれます。悩みや不安があればみんなに聞いてみんなで考える。分からなかったり、対応に困ったらみんなに聞く、ということが当たり前のようにできています。対応が困難であれば複数のケアマネが対応するケースもあります。

また、特定事業所加算を算定しています。週に1回、会議の時間を設けています。過去に取り扱ったケースの見直しや地域における社会資源、保険や医療に関する情報、ケアマネジメントにおける技術等の意見交換や情報を共有し、知識や技術の向上を図っています。

そんな中で、検討した事例を一つと居宅のメンバーを紹介します。

(事例)

58歳の女性で10代の頃に統合失調症を発症し、現在は同居している長男が介護をしています。長男は介護のためにきちんとした仕事に就けず、派遣社員として働いています。日常的に幻視や妄想があり、同居している家族とも喧嘩が絶えない状況の中で長男の収入が少ないため、十分なサービスの利用ができず、精神科で頻繁に薬を変えたり、精神安定を図る注射を打つなどの処置で何とか自宅で看ている状況でした。

ショートステイや施設入所、入院を提案しても「お金がないのでできない」と必要なサービスが利用できず、ケアマネもどういサービスを組み入れていけばいいのか悩み、事例検討会で話し合いました。

『セカンドオピニオンの提案・専門病院の受診、紹介・生活保護の申請・精神保健福祉士を入れた会議を開催し、医療との連携を取る。本人の生活リズムを整える工夫・障害者年金の申請』等の意見が出されました。それをもとに長男と相談し、「内服薬の見直しのための入院」「退院後はショ

ートステイを利用する」ことを目標にして、障害者年金の手続きを行うことにしました。

障害者年金は初診日まで遡らなくてはならず、40年以上前に診察した医師はすでに他界。調べてみると、十数年前にも障害者年金の手続きを母親がしていましたが、必要書類を集めるのに苦労し、途中で断念していたことが分かりました。

主治医や病院SWと連絡を取り合い、4カ月程かけて必要書類を集め、障害者年金1級を取得できました。

年間約98万円の年金がもらえ、医療費も免除してもらえるようになりました。長男と相談して決めた「内服薬の見直しのための入院」ができるために病院SWと相談し、2か月間入院。現在は退院し、長男が望んでいたショートステイが利用できるようになりました。

事例検討会で話し合うことで自分が気づけなかったこと、知らなかったことが発見でき、様々な方法で在宅生活が支えられることに気づくことができた事例です。

居宅のメンバーをご紹介します。

沼澤文子・・・忙しくても、すぐに話を聞いてくれるみんなの「よろず相談所」です。信頼度抜群です。

内田昌宏・・・わからない事は何でも丁寧におしえてくれます。冷静な判断ができ頼れる存在です。困った時の内田さんです。

品田一代・・・あったかい人柄で皆を見守ってくれています。言葉的確で面倒見の良いおばちゃんです。お花が大好きで毎日の水くれをかかしません。頼れる存在です。

清水克哉・・・その日の仕事はその日のうちに終わらせます。ファイルの整理は1番です。困難なケースも動じません。

廣井幸恵・・・情に厚く常に利用者サイドにたってケアマネジメントをしています。利用者さん一人一人にとっても丁寧に関わっていて正義感が強いです。利用者の1番の味方です。

阿部あき江・・・仕事に一生懸命に取り組んで、明るく元気で社交的。よく気が付いて、いつの間にか何でもやってくれています。気が利いてしっかり者です。

大坂三枝子・・・穏やかでやさしい性格です。得意のトールペイントで、本部玄関を華やかに飾っています。ほんわか天然で場を和ませてくれています。困難なケースも笑顔でかわします。

田子早希恵・・・現場での経験を生かして素敵なケアマネになる予感あり。ただいま急成長中です。期待の新人です。

谷崎敏江・・・何でも知っていて、知識の引き出し豊富です。何を聞いても、とても優しく丁寧に教えてくれます。グループホームのケアマネです。

まとめ

今回「自慢できること」とお題を頂き居宅支援事業所ようざんで一番自慢できることは何かと皆で考えました。メンバー全員一致で「チームワークのよさ」と声が上がりました。なぜだろう？考えた結

果、お互いがスムーズに仕事ができるように配慮しています。当たり前のことですがお互いを信頼し合っています。困ったとき気軽に意見が聞ける関係が出来ています。日頃から何でも言い合える関係を築いている。

ケアマネの仕事は社会福祉関係 医療福祉関係 地域のサービス また各種法律の知識が必要になります。そんな中メンバー9人の知識と知恵 経験がものを言います。われわれメンバーは利用者のため、仲間のため、出し惜しみ無くそれらを発揮し、日々研鑽につとめています。ようざん居宅は一人の利用者を9人全員で支えています。

時々事業所に訪問しています。ご存知ない方がいらっしゃるとおもいます。「あの人誰、なんだか馴れ馴れしく話しをしているよ。しつこい質問もしている。答えて言いのか？」と疑いの目で見られるかも知れません。私たちは決して怪しいものではございません。紹介した通り皆良い人ばかりです。安心して話しかけてください。

～レクリエーション、個性を活かして～

ケアサポートセンターようざん並榎

矢田裕司

【はじめに】

みなさんは落ち着いた環境でレクリエーションを行えていますか？業務優先になり、その日に利用されている方の一人一人の表情、様子は見えているだろうか？日々の決まった流れや業務におわれレクが疎かになってしまう事はあると思います。

ようざん並榎では業務に追われてしまい、利用者様一人一人とコミュニケーションを取る時間が少なく、職員自ら利用者様と話す機会が余りありませんでした。そのような事を改善する為に、ようざん並榎では、レクリエーションを当番制で行う事にしました。

【取り組み内容】

午前と午後で一日ずつレクの担当者を替える事にしました。これは職員全員にレクについて関わってもらいたいという気持ちから始めたものです。

当番制にする事により職員一人一人の個性を生み出し、同じ職員によるレクのマンネリ化を防ぐ事にも繋がります。今回の取り組みで、業務優先や今までのレクに対する支援方法を改善しました。

【当番制により改善された事】

- ① 職員の個性を引き出すことができた＝歌の好きな職員は童謡や歌謡曲など数多くの歌をレクに取り入れる事ができました。また言葉遊びでは、早口言葉やなぞなぞの種類を新たに増やしレパートリーに取り入れる事ができました。
- ② 利用者の方に対する個別レクが見つけれられた＝個別レクも可能になり動ける幅が増え、一人の利用者様に対して個別で行なう事ができるようになった。例えば、A様に漢字プリントをやってもらったところ、漢字問題が得意だという事が分かりました。
また、B様の家族から頂いたお花にB様と一緒に水やりをした所、とても喜んで下さいました。その日からB様にはお花の水やり当番をやって頂くことにしました。
- ③ 当番制になった事によりレク計画が立てられるようになった＝道具の準備も可能になり、紙芝居や書道を気軽に利用者様と楽しむ事ができるようになりました。職員のレクに対しての意識が高まり、内容を充実させることにも繋がった。
- ④ 利用者の方と直接的に関われる時間が増えた＝配食や訪問に出でしまい、いままで関われなかった利用者様とも一人一人と向き合う事ができるようになりました。

【課題】

- ①職員のレクリエーションに対する意識の差がまだまだあるような気がします。気軽に職員同士でレクリエーションの内容に対して話し合えるようにするにはどうしたら良いか。
- ②集団レクや個別レクを行なうにあたり、どのようにしたら利用者様を楽しませることができるか。
- ③趣味嗜好が分からない利用者様もいるので情報収集をふまえ、本人が出来そうな事を考えていく必要がある。

【考察】

レクリエーションについて事例を考えるに当たり、単にレクリエーションといっても色々なやり方、種類がある事を知りました。実際に当番制にした事により、一人一人の職員が業務やレクリエーションなど責任を持って行うことが出来ていると思います。レクリエーションにより、職員も責任感を持つことができ、それにより利用者の方も刺激を受け、個々の生活の充実に繋がっていかれたらと思います。

実際にやってみて、一人一人の表情をより観察して行なうことが出来ました。他の職員のレクリエーションのワザ(導入や、盛り上げ方)が勉強になりました。

【まとめ】

- ・以前の活動に比べて、レクリエーション活動を皆で会話を交えながら楽しみ、利用者様の脳や身体を刺激できるようになりました。レクリエーションを通して知らず知らずの内に夢中になり、職員の自信に繋がることが出来ました。
- ・職員の変化は利用者様にとっても刺激になると思います。職員も利用者の方々と同様にレクリエーションを共に楽しめるようにする事も大事だと思います。毎日同じことを単調に繰り返す生活ではなく日々の生活を楽しいと思えるように作り変えることが出来る場所が魅力であり自慢であると思っています。

【最後に・・・】

今回、取り上げた事例により、ようざん並榎の全職員が日々のケアについて真剣に考え、ご利用者様と試行錯誤しながら向き合っている様子の一部をお伝えしました。これからも確実に一步一步、歩みながら日常の当たり前に起きている事に着目し全職員で「考える」事を絶やさずに自慢できるケアを実践して行きたいと思っています。

ショートステイようざん並榎スタッフは勉強家です

ショートステイようざん並榎はピック病の介護が得意です

ショートステイようざん並榎

堀江 一彦

1. ショートステイようざん並榎スタッフは勉強家です

ショートステイようざん並榎は平成24年7月に開設しました。開設時の介護福祉士、認知症ケア専門士、ケアマネ、社会福祉士の有資格者は下記の通りです。

資格	開設時の有資格者数
介護福祉士	2名
認知症ケア専門士	1名
ケアマネ	1名
社会福祉士	1名

高橋社長が部署会議で何度も「資格にチャレンジするように」とのお話があり、資格取得に向け、ショートステイようざん並榎スタッフは一生懸命勉強しました。資格取得後、職場異動もありましたが、開設して2年間で下記の合格者を輩出しました。

資格	2年間の合格者数とその割合	2年間の全体の合格者数
介護福祉士	4名 全体の16%	25名
認知症ケア専門士	2名 全体の16%	12名
ケアマネ	1名 全体の14%	7名
社会福祉士	1名 全体の50%	2名

資格は一生ものです。ショートステイようざん並榎では、資格取得を全面的にバックアップしており、試験直前に最大3連休をあげたこともあります。また、介護福祉士の手当は17000円/月と高額です。年間約20万円も収入増になります。介護福祉士を取得したスタッフAは、生活がうるおい、車が新車に、美容室に行けるようになったと喜んでおります。

これからもショートステイようざん並榎スタッフには資格取得に励んでもらい、生活も、職業人としても豊かになってもらいたいと思います。

2. 私たちは前頭側頭葉変性症(≒ピック病)の介護が得意です。(下記ピック病と記します)

ピック病は集団生活になじみにくく、各認知症ケアのなかでも未だ手さぐりの状況で認知症の中でも介護が難しいと言われております。その占める割合は資料にもよりますが、全体の5%程度と言われております。ショートステイようざん並榎ではこの資料作成時には、ピック病の方が1日5名いることもあり、全体の25%はこの対応が難しい認知症の方です。ケアマネ、家族だけ

でなく専門医からも人的支援でこれほどよい結果を出している事業所は過去に知らないとはめられることもあり、ここで声高らかにピック病の介護が得意だと自慢をしようと思います。

★ 自慢1 常用ではありませんが、ピック病の方専用の記録様式があります。

ピック病の特徴的な症状に時刻表的な生活、被影響性の亢進(影響の受けやすい性格)状況にあわない身勝手な行動等があります。ピック病のケアは難しいですが、特徴的な症状をうまく活用すると安定した生活が送れることが多いことから、スタッフが利用者の特徴的な症状を把握できるまで、この記録様式を用いることがあります。

★ 自慢2 症状を熟知し、ケアをしています。

今回の事例で紹介するAさんは下記のピック病らしい症状がありました。

1. 状況にあわない行動:他の入居者に帰ればいいと大声を出す。
2. 清潔に無関心:入浴はまず断る。整容も散髪もなかなか出来ない。
3. 時刻表的行動:ショートの日課計画や自身の生活リズムはよく理解している。また過剰に日課計画に敏感である。
4. 被影響性の亢進:ショートの入退所が気になって仕方ない。自身の前に座るBさんの様子が気になる。
5. 食事行動の異常:大食いで人の物も食べてしまう。

Aさんには1～5のピック病らしい特徴的な症状がありました。例えば入浴拒否ですが、アルツハイマー型認知症の方へは病識欠如、着衣失行を念頭に入れお誘いします。ピック病のAさんはBさんに影響の受けやすい性格を活用(被影響性の亢進)し入浴をお誘いしています。動画をご覧ください。

★ 自慢3 症状を熟知した環境になっています。

ショートステイには1泊2日の短い期間のご利用から、施設入所待機のロング利用の方とさまざまです。Aさんは周囲の環境の変化に敏感で下記のような症状がありました。

【現状】

1. 居室プレートが小さくまた高い位置にあるので、入居者の名前が読めない。誰がどの部屋に宿泊するか気になってしかたない。
2. ショートは入退所が重なると1ユニット最大12～13名の利用者が利用している。居室数と利用者数があわないと退所予定者に帰ればいいと大きな声を出してしまう。

【対策】

1. 居室プレートに入居者の名前を記入するのをやめ、別に大きな文字で掲示した。結果、誰がどの部屋に宿泊するかA様が把握できるようになり、『あの人はどこに泊まるんだ』といった発言は減った。
2. ショートステイようざん並榎は2ユニットあり、5月よりA様ご利用のユニットをロング利

用中心のユニットにした。ロングが多い=入退所者がいないので『帰ればいいんだ』と大きな声を出す事も減った。

★ 最後に

ピック病は対応が難しく、医療保護入院の対象になる方も多くいます。1日最大5名もピック病の方がご利用になることもありました。大変な介護を要しますが、利用者ひとりひとりに真摯に向き合って下さるショートステイようざん並榎スタッフには頭が下がる思いです。まだ全国的にも手探りの状態であるピック病のケアをショートステイようざん並榎のスタッフの力を借りて、更に質の高いものにして行きたいです。

グループホーム ようさんの「いいね！」

グループホームようさん

新井 真美

【はじめに】

皆さんはcと聞いてどのように感じるでしょうか？

閉鎖的・大変・休みが取れない etc. 色々あると思います。

入所施設なので利用者様との関係はお客様というより家族に近い気がします。利用者様との距離がとても近いのです。利用者様とのホームでの生活は私たち職員にとって仕事と言うよりも生活の一部です。だからと言って馴れ馴れしく接したりはしていません。とても良い距離感を保ちながら楽しい日々を送っています。

入居者の9名だけでなく 1日定員3名の共用デイサービスを利用される方もいらっしゃいます。グループホームという家庭的な要素だけでなく、デイサービスとしてもしっかりと機能し、様々なレクを行っています。

今回は事業所自慢というグループホームようさんを知ってもらう良い機会という事でホームの日常の様子と自慢をお伝えしたいと思います。

【vようさんのいいね！その1】

～ 少数精鋭の介護力 ～

介護の実務経験 3年未満の職員が9名中5名と圧倒的に経験値が少ない事業所です。

日によっては16時以降に遅番と夜勤の2人態勢になってしまうのですが、その場合は夜勤者が厨房に入り、遅番が1人で12名を相手にレクと業務を行います。そしてデイの利用者様が帰る時間になると入居者様の帰宅願望が一斉に始まります。しかしそのような場合も私たちは慌てず落ち着いて対応します。決してイライラするようなことはありません。どのような場面でも利用者様の気持ちを尊重します。私たち職員がイライラしたり、訴えにしっかりと耳を傾けないと利用者様は落ち着くことが出来ないからです。

帰宅願望時の対応だけではありません。例えば 利用者様 A様は他のグループホームでは一泊も出来ずその日のうちに解約となりました。暴れて職員に暴力を振るったそうです。A様はグループホームようさんに入居されてからも強い帰宅願望があり、就寝前に納得して頂けても夜中や明け方には「帰る!!」と怒り出したり、窓ガラスを割ろうとしたり、他の利用者様をたたき起こして「窓を開ける!!」とトラブルになったり・・・それはもう、たくさんのエピソードが存在します。その様な時、私たち職員は 帰りたい気持ちに寄り添い、しっかりと向き合い、一生懸命耳を傾け対応します。そうする事で信頼関係が築け、今では眠れない夜でも職員と談笑して過ごす事が出来ています。眠れない夜があるのはA様だけではありません。利用者様が眠れない夜は普段言えない本当の気持ちをゆ

ゆっくりと聞く事が出来る時間であり、楽しいひと時でもあります。私達はその時間を貴重な時間と考えています。

夜勤明け、朝の申し送り前の記録をまとめる時も職員は利用者様の隣で会話を楽しみながら行います。穏やかな1日は穏やかな朝から。そのような決まりを設けている訳ではなく、自然とその様に行う事が当たり前になっています。いつでも利用者様と関わってみたいと思うからです。

この他に、主治医と話し合い内服を見直す事で車椅子でも座位保持できなかった方が今では歩けるようになりました。試したことが利用者様にとってとても良い結果につながる事は、私達職員の自信にもつながります。更なる目標達成の為に「利用者様の為にどうしたら良いか」気づきの力が磨かれます。カンファレンスの場を設けなくても意見交換は日々行われます。申し送りノートにも意見やアイデアが書かれている時があります。場合によっては主治医や福祉用具の方、そしてご家族の思いなど、色々な意見を交え、ベストな支援方法を検討して実践しています。

【グループホームようざんのいいね！その2】

～「最強の小姑力」と「嫁と婿」のイイ関係～

言わずと知れたグループホームようざんの小姑力。人数が少ないからこそ効率よく業務をこなし、空いた時間は利用者様と関わりたい。そんな思いから物の配置や収納にも細かいところにもこだわります。

時には洗濯の仕方、干し方など業務以外の生活に関係する事まで 今度は姑目線です。しかしそんな時も私たち独身職員は「傾聴」の姿勢で謙虚に受け止め、時には流し、「小姑の気持ちに寄り添う事」で介護力を高めています。

【グループホームようざんのいいね！その3】

～遊び心を持って楽しもう！～

●「SWEETS WAGON」

グループホームようざんの通貨イベント「SWEETS WAGON が行く!!」は毎月欠かさず、利用者様との手作りお菓子を各事業所へ販売に行き、利用者様が販売しております。

最初はお店として訪問先の利用者様に来て頂きましたが 販売担当の利用者様が大変で楽しむことが出来ないのです。今では利用者様が訪問先の利用者様1人1人に声をかけて販売するやり方に変更しています。そうすることで利用者様同士の会話が生まれ、ゆっくりと楽しむ事が出来ています。

SWEETS WAGON は利用者様だけでなく、職員も他事業所へ出向く事で刺激を受ける事が出来ます。事業所内の飾りつけや雰囲気・利用者様と職員の関係など、事業所ごとに様々です。ただ行くだけではなく訪問先で何かを得る良い機会にしたいと思っています。

●「行動力」と「企画力」

「天気が良いから外でお茶が良いんじゃない?」「今、高崎市美術館でやっているイベントに行きた

いんですけど」「工場見学にいきたい！」「焼とうもろこし、明日しようか？」利用者様に楽しんでもらえるように意見がポンポン出てきます。利用者様のご要望になるべく早くお応えできるように職員はすぐ行動します。面倒くさいなどという言葉は聞かれません。思いつきのアイデアで並榎エリアの事業所に グリラ通貨レクも開催します。利用者様だけではなく私たち職員も楽しいが一番！ アクシデントがあっても バタバタしても 段取りが悪くても そこを楽しむ。心にゆとりと遊び心を持って利用者様と楽しんでいます。

また「食」でも楽しんでもらえるように 職員出身地の郷土料理をふるまう「食フェス」を行っています。第1回目として6月に「福島フェア」を行い、喜多方ラーメンやこづゆを味わって頂きました。材料を現地で購入するというこだわりです。今後の「北海道フェア」も現地で材料を仕入れてくる予定です。地元でないと手に入らないマイナーな物や土産話など、食事以外にも色々楽しんでもらっています。「利用者様の笑顔が沢山見られるように」アイデアは尽きる事はありません。

【 最後に 】

まだまだ未熟な私たちです。「本当にこれで良いのか？」悩みは尽きません。混乱期に入っている入居者様が多い中、これからが本当に専門職として質が問われてくる時期になると感じています。入所施設の場合、私たちの対応で利用者様の生活が決まってしまう。「世界で一番、大きな愛を利用者様に届けられる施設でありたい」そう思いながら これからも大事な家族の為に自己研鑽に励み、より良い介護が出来るようにしていきたいと思えます。これからも利用者様の「笑顔の素」になれる職員で居られますように。

あなたひとりだけのために

スーパーデイようざん双葉

榎田千恵子

「あなたひとりだけのために」私達が双葉開設以来力を注いでいるテーマである、利用者様おひとりおひとりの思いに添った個別レク、その取組のほんの一部をここに発表いたします。それでは、スーパーデイようざん双葉職員を紹介いたします。

- ・ガッツだぜ、気は優しく力持ち。頼りにしてますよ！内山主任。
- ・どんな時も、気配り心配り忘れません。梨本さん。
- ・博学多識は大橋さん。
- ・料理の腕前は天下一品です。猪俣さん。
- ・アイディアマン、ムードメーカー、ちょっぴり小粒な西田さん。
- ・常にマイペースな南雲さん。
- ・音楽鳴ったら踊り出す、ちょっと変な榎田です。
- ・そんな、私達を束ねる男気あふれる菅沼所長。

以上 8 名の職員が自慢とする、企画力、そしてすぐ行動に移す実行力。

利用者様との会話から何気ない言葉を聞き逃さず、すぐ始動です。

「そうですね。」や「いいですね。」ではありません。「やります。」なのです。

もちろんできることには限度がありますが、限りなく希望に添いたい。

その先にある利用者様のプライスレスな笑顔のために努力は惜しみません。

双葉開設以来続けてきた、あなたひとりだけの特別・・・。

まずは A 様 89 歳

国鉄に勤務し駅長をしていた。家ではごろごろ、デイではうとうととするばかり。

「A さん、倉賀野駅の駅長時代も居眠りしていたんですか？」

「そんなわけないだろう、ずいぶん変わっただろうな。」

じゃあ、見に行きましょうか、と出かけました。

金網越しに懐かしそうな目で駅舎を見る A 様。「懐かしいなあ。」

そして名前を呼びカメラを向けると、キリッと敬礼をして下さり、その姿は凛々しく

乗客の安全と、正確な運行を守る駅長でした。

B 様 79 歳

生まれが愛知県で新鮮な魚介を食べて育った B 様。

「角上の魚は美味しいよ。新鮮なもの。前は娘が良く連れて行ってくれたんだけどね。たらこやい

くらが食べたいねえ。」とスーパーのチラシを見ながらポツリ。

B様はお金の管理ができる。買い物に行ける！と実行。

車いすに乗り、レジかごを抱え「お兄さんあっち。次はこっち。さんまがおいしそう。ちょっと止まって。」とテキパキと職員を動かし、その夜は大好物のいくらとたらこをおかずにおかずを夕食を召し上がったそうです。

C様 90歳

とても家族思いで優しいC様ですが、普段は無口です。

幼くして奉公に行き、軍隊でも我慢を強いられてきたせいかわ遠慮勝ちです。

誕生日に近いこともあり、お祝いさせて欲しいとお聞きしてみると、照れくさそうに「刺身。」と一言。

夕食がC様お一人のとき、お祝いをしました。

近所のスーパーなのですが値段の割に豪華です。

今は楽しみの晩酌をしていないというC様。お酒が付いたらもっと良かったですね。

D様 76歳

ジャズや映画音楽が好きで、ダンディズム漂うD様

コーヒーも好きで以前通っていた喫茶店に出かけたことがありました。

でも今回はジャズ喫茶です。倉賀野にあるCLART(蔵人)

事前に連絡をし、美味しいコーヒーとジャズ、スクリーンに映る映画を楽しみ、ゆったりとした大人の時間を過ごしてきました。

「良かったよ〜。」普段は歩行器を使いますが、段差があるため、この日のために職員が脇を抱え歩く練習をした甲斐がありました。

E様 90歳

思い出の北小学校。「勉強のことで父や母に叱られても校庭にある榎の下に立つと不思議と忘れることができるの。大きな木よ、榎っていうのよ。会いたいわ。」と良く口にされていました。

3月、校庭の桜がきれいです。ブロック越しでなく、校庭からあの榎を見ることはできないだろうか。

早速校長先生に電話をし許可を申し出ると、「いつでもいいですよ。」というお返事をいただきました。

そして間もなく、なんと校長先生がわざわざ北小学校の昔の写真を持って双葉に来て下さったのです。

写真を見て嬉しそうなE様。何度も何度も繰り返し見えています。

鶯が鳴く暖かな日、校庭には子供たちが元気に遊んでいます。

校舎には『祝北小学校開校112周年』と横断幕が。

「懐かしいわ、私がいた頃よりもっと大きくなってわ。」「そこに二宮金次郎があったのよ。」

「運動会もここでしたのよ。」

その表情は78年前に戻った少女でした。

E様は、堂々と立つこの榎に見守られていたのですね。

以上、5例を紹介させていただきました、まだまだたくさんのごことを実行して来ました。

思いをうまく伝えられない利用者様には、生活歴から好きな食べ物や、思い出の場所などに出かけています。

忘れてもいいのです。私たちの自己満足かも知れません。

利用者様の笑顔が見られ、もちろんご家族からも感謝され、自分が家族だったら、もし自分が双葉を利用していたら、「あなたひとりだけのために」職員が全員体制で実行してくれる。

嬉しいですね。

職員の入れ替わりがほとんどないからでしょうか。質の高いケアが統一できています。

その強みが利用者様との信頼関係に繋がっているのだなと思います。

この仕事って、いくつになっても「お姉さん」と呼ばれるからこたえられません。

「お姉さん。」誰かが呼ぶと、女性職員全員が振り向くスーパーデイようざん双葉でした。

ご清聴ありがとうございました。

「ここで寝るんだあ～」

～いつまでも二人で、サテライトを利用しながら自宅で過ごす～

ケアサポートセンターようざん中居
関 ひかり

はじめに

長年住み慣れた家、愛する家族と過ごした家で暮らしたいという思いは誰しもが持つものでしょう。年を重ねて思うように体が動かなくなってきたとしても「自分のことは自分でできる」「子供に心配をかけたくない」。それと同時に離れて暮らす年老いた親のことを心配する家族の思いもそこにはあります。「いつまでも元気で」「安全に、安心して暮らして欲しい」。

本体事業所であるケアサポートセンターようざん双葉とともに地域密着型介護に携わらせていただく中、いつまでも住み慣れた家で夫婦一緒に暮らすを実現したある利用者の事例を発表します。

名前:	Aさん 男性	Bさん 女性
年齢:	88歳	85歳
要介護度:	3	3
日常生活自立度:	Ⅱb	M
既往歴:	認知症 前立腺肥大 急性胃潰瘍	認知症 10年前位にうつ病
家族構成:	娘 2人(長女 八王子 次女 東京)	
趣味:	釣り ドライブ	散歩

生活歴

Aさん：新潟県生まれ。幼少時に父親と死別、親族をたより高崎へ移住。その後教師となり見合
いにて奥様と結婚。結婚後も養護学校を中心に教鞭をとり、定年まで勤め上げる。

定年後は、町内会長2年、地区の衛生係2年と地域への関わりも深かった。

Bさん：月夜野に生まれ、成人後は教師の道へ進み、結婚し高崎へ。結婚後も教師を続け仕事
一筋であった。

Aさん、Bさん共に21年ころより認知症の症状が見られるようになり、現在は重度の認知症の妻
を同じく認知症の夫が介護している状態である。

小規模多機能、サテライトの具体的な特徴

- ① 必要に応じたサービスの組み合わせが可能である。
- ② サービスにより、事業所を変更する必要が無いためスタッフとの信頼関係を深める事ができる。
- ③ 緊急時には、ケアサポートセンターようざん双葉と連携し宿泊対応も可能である。
- ④ 双葉でのイベントに参加をする事で、地域とのかかわりをより広く持つ事ができる。

課題

ようざん利用前は、他施設にてデイサービスと週末のショートステイを利用していたが、認知症の進行にともないさまざまなリスクが大きくなり夫婦二人での生活が困難。

ようざん利用前のリスクの発現

- ① Bさんが自転車で、大好きなスイカを買いに出かけたが帰ってこないため Aさんが探しに行くとき自転車が倒れておりスイカも割れていた。
- ② Aさんから娘へ「家に2人組の男たちがきて通帳やらお金やら全部もっていった」との訴え、家中の引き出しから衣類をだし散乱していた。
- ③ 時には夫婦二人ででかけるも帰り道がわからなくなり、保護される。
- ④ 自宅では二人でおり、地域との交流もないため緊急時の対応に不安がある。

家族は自宅での生活維持困難と考え施設への入所を検討するが、Aさんは自宅で妻と共に生活を継続していきたいとの希望を持たれていました。

「俺が家で(妻を)みながらやるから大丈夫だ」

家人はAさんの強いお気持ちに説得を諦めようざんへ相談がありました。

取り組み

相談があったとき、この状態のご夫婦二人での在宅生活の継続はかなり困難に思えましたが、本人の思いに添えるケアについて双葉、中居の職員合同でカンファレンスを複数回もち検討を重ねました。

本人の思い	家人の思い
<ul style="list-style-type: none">・住み慣れた自宅で過ごしたい・妻と二人でいたい(妻の)面倒はおれがみる・娘たちに心配かけたくない	<ul style="list-style-type: none">・安全、安心して暮らしてほしい・地域との交流を持てたらうれしい・認知症の進行をおくらせるために 今までの生活習慣の継続が出来たらうれしい

利用日

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
通い	訪問	通い	訪問	通い	通い	訪問

Aさん、Bさん夫妻の場合は、小規模多機能型施設の利点でもある通所、訪問を併用するプランを立案、それにより夜間は毎日自宅で休むことが可能となりました。万が一の緊急時には宿泊対応も可能とし家人の不安を取り除くことも考慮、あわせていくつかのリスク回避のアイデアも実現しました。

訪問の日もようざんへ行くつもりで、冬でもスタッフが行く前に外で待っている。

そうだ！利用日を表にしてリビングにはりだそう。

夜中によくようざんへ迎えはまだですか？と電話をしてくる。

そうだ！通いか訪問かがわかるように電話のところにメッセージボードを置くようにしよう。

あれ、前の訪問の時にはなにか問題があったかしら？

そうだ！訪問ノートを作成して情報の共有をはかろう。

毎日自宅へ帰る事ができるため長年の生活習慣を変えることなく、今でもAさんご自身がコンビニまで二人分の朝食を買いに行きます。毎朝必ずスタッフが訪問するので、もしAさんがいないときにはコンビニまでの道のりを確認しながら車でおいかけ買い物のお手伝いをします。

外出前には、自身でセコムのセットと鍵の施錠をします。

時折、買い物でビールを購入、自宅で晩酌もされています。

二人の時間を作るために、職員と共に買い物に出かけた時にはAさんが奥様と洋服を選び、気軽に外出できる環境づくりを心がけています。

結果

通所と訪問を利用し住み慣れた家での生活を継続、広く地域との交流を通じてAさんには自信がつき、スタッフとの会話の中で少しずつご自身の昔話を下さるようになりました。教師時代に教え子たちと行った「浦島太郎」の劇についての思い出を楽しそうに話すAさんを見て、「そうだ！双葉と中居で合同で劇をしよう」、そしてAさんに総監督をしていただこうと思い立ちました。その人らしさを、より輝かせるステージを用意できたことをとてもうれしく思っています。

Bさんも初めは全くの無反応でしたが、通所利用を開始してから歌を歌うようになりました。昔、子供たちと歌っていたのか、唱歌や童謡などを一緒に歌ってくださいます。

また、授業で教えていたのか上毛カルタの上の句を読むと下の句を返してくれるようになりました。

在宅生活の継続は困難と思えた今回の事例ですが、スタッフの関き、働きによってBさんに大きな自信を持ってもらうことができました。

終わりに

運営推進会議に参加し

「ここは皆さんが親切で、浦島太郎の劇もとてもよかったです。楽しく過ごしています。」

と話して下さった A さん。

同会議に参加していただいた長寿社会課の方より

「レクリエーションで劇をやっているのを聞いて驚きました。利用者さんに監督をしてもらうなど、利用者の得意なことを活かす場を作っているのがとても良い事だと思います。」という言葉も頂きました。地域の皆様のご理解を頂き、このような言葉を頂けるケアを行なえた事、それが私たちの大きな自信と自慢です。

B さんの口癖である「ここで寝るんだあ」

それを聞いて笑っている A さん。

はい、大好きなお家でゆっくり寝ましょうね。

本日は、御清聴ありがとうございました。

「地域交流」と「異業種との連携」

ケアサポートセンターようざん双葉

小板橋貴之

今回ケアサポートセンターようざん双葉より、ご紹介させて頂く自慢は「地域交流」と「異業種との連携」です。

【地域交流】

毎月「ふれあいサロン」といい公民館で地域交流の場があります。そこでは、保健師さんによる健康チェックや健康指導の他、様々な催し物が企画され、地域との大切な交流の場となっています。

毎月お声かけ頂き利用者様と参加し、地域の方々と楽しい時間を過ごさせて頂いています。

今回、いつもお世話になっている地域に向けた活動を行いたいという思いから取り組んだ内容を紹介させていただきます。

1、地域のごみ拾い。

地域貢献の一貫の他、近隣の方々との距離を縮めたいという思いから、継続して行っています。継続して行う事で、すぐに住民の反応に変化が見られました。

「おはようございます」という挨拶に最初は「おはようございます」というお返事でしたが、徐々に「ご苦労様です」と一言頂けるようになり、最近では「いつもありがとね」と声を掛けて頂けるようになりました。

また、月に1度、「清掃日」として勤務表に組み込み、広範囲でのゴミ拾いも継続して実施しています。

6月1日に行われた双葉町の清掃活動においては、民生委員さんから「ぜひようざんさんも参加してくださいよ」との要望を受け、喜んで参加させて頂きました。

清掃活動後には、バーベキューにも参加させて頂きました。

こうした地域活動を継続して行い地域との関わりをより密接にしていきたいと思えます。

2、ふれあいサロンでの説明会

民生委員さんへ「何か私たち発信で地域に向けた取り組みをしてみたい」と話したところ「双葉町は高齢化が進み独居の方も増えている」と、将来に対し不安を抱えている方が多いので、介護についてプロの方に説明会をしていただきたいと依頼を受けました。

民生委員さんと打ち合わせを重ね、認知症になったら即施設ではなく、地域ぐるみで認知症の方を支え、もし将来認知症になったとしても双葉町での生活を安心して継続できる町づくりのきっかけとして行いたいという思いに賛同いただき、「認知症と介護」をテーマに説明会を行う事となりました。

日時は5月20日 時間は10時半～1時間程度の時間を頂きました。

当日は40名ほどの地域の方々にご参加いただきました。

認知症予防の説明では、実際に頭や身体を使い「難しいな～」「これでいいのかな」「違うよ。こうだよ！」などと参加者さん同士で声を掛けあいながら、取り組む様子が見られました。

6月に行った運営推進会議にて、区長さん・民生委員さんより「高齢化が進む双葉町において、先日の説明会は大変貴重な内容でした。気にはなっているけど、なかなか説明を聞く機会がない認知症の事。日常生活の中で無理なくできる認知症予防について大変分かりやすく説明頂きとてもよかったです。また、福祉用具を用意して頂き、見るだけでなく実際に触れることができ、今回参加できなかった人たちにも説明することが出来ます。今後も継続してお願いします」とお言葉を頂きました。

今回の取り組みは、認知症になっても双葉町での生活を安心して継続できる。

認知症の方を地域ぐるみでみんなで支えよう。「そんな町づくりをしたい」という思いがきっかけでした。

地域密着型サービスの地域での役割を改めて見つめ直したとき、介護や認知症に関する相談の拠点であるべきと考え、気軽に相談できる関係作りのためにも、地域に向けた活動を継続し、より身近な存在になれるようにしていきたいと考えています。

【異業種との連携】

今回、新たなレクリエーションの取り組みとして、飯塚町にある結婚式場「マリエール」と連携を図った取り組みについてご紹介します。

きっかけは、私がマリエールと同系列の日展ラサより依頼を受け、定期的に介護保険の説明会を行ってきました。

担当の方がわざわざ事業所へお見えになり、「何かこちらからお役にたてることはないでしょうか」とレクリエーションの案をお持ち頂きました。

お持ち頂いた案は、結婚式場のプロのメイクさんが事業所に見えてお化粧をするというものでした。

よくよく話を聞くと、結婚式場に使わなくなった衣装があるとの事。

そこで、こちらから利用者様をお連れして、衣装を着てもらって写真を撮っていただく事は出来ないかと提案。

何度か打ち合わせを重ね、こちらの要望を受けて頂くことが出来ました。

今回お声かけた利用者様はお誕生日が近いA様。奥様にも趣旨を説明し、「一度ウエディングドレスを着てみたかった」と大変喜んで頂き、ご夫婦で写真撮影を行う事になりました。

向かえた当日です。

やや照れくさそうなA様。ロビーで待っていると、控室へ案内されます。

中へ入ると、撮影用の衣装が用意されていました。

さっそくプロのメイクさんとスタイリストさんによる準備が始まります。

支度が終わるといよいよ撮影です。

今回、撮影の場所として教会をお貸し頂き、プロのカメラマンに写真を撮って頂きました。

マリエールより写真が出来上がった連絡を受け、ご家族へお渡しすると大変喜んで頂きました。

写真は、2週間ほどで出来上がり費用のご負担はありません。

今回はご夫婦ともに歩行可能な方でしたが、車いすの方も専用の衣装を用意できるとの事です。

式場についてから、帰るまでにかかった時間は45分程度でした。

予め対象者の身長、靴のサイズ、希望の衣装を伝えておけば事前に準備しておいて頂き、当日は、移動や更衣の介助を職員で対応すれば、あとはマリエールのスタッフが対応してくれます。

お誕生日やご夫婦の記念日等に是非この取り組みを活かしていただければと思います。

利用者様から学ぶこと

訪問介護 ぽから

佐藤 靖典

訪問介護、と聴いて皆さんは何の仕事をしていると思いますか？

施設介護はすぐに浮かぶかも知れませんがどうですか？

簡単に分けると、身体介護・生活支援・通院乗降などになります。

最初にサービス提供責任者の仕事内容の説明をします。

ケアマネさんからサービス希望の話が来ますと、地区や介護度・駐車場の有無・大まかなサービス内容・時間帯・希望日・自立できているかどうか・等を確認し調整して貰えるように交渉していく事がサービス提供責任者の仕事です。

一番大変なのは、スケジュールの調整です、二週間分のスケジュールをバランス良く作成しますが、ヘルパーさんの都合で急に行けませんと連絡が入った時や、急な受診や入院等でスケジュールの変更をしているので、ミス無くす為に毎日明日のスケジュールのチェックをしてから帰ります。

月の頭の実績を各居宅事業所に届けに行きます、ありがたいことにさまざまな事業所様から仕事を頂いていますので、普段忙しくて坦会の時でないとお会えないケアマネさんに会えて、時には情報交換ができます。

それでは、これから実際にしているヘルパーさんの一日の仕事とエピソードを見ていきましょう。

最初の訪問先は生活2の45分のお宅です、訪問すると大体ベッドに寝ています、「おはようございます、ぽからです」と声掛けし入室しますと、快く受け入れてくださいますが、「今日はデイサービスに行きますから着替えましょう」と言いますと、急に不機嫌になられて「いけないよ」といいだしてしまいます。この方は尿失禁が有るので何時も全更衣になります、ヘルパーさんは手でシーツが濡れているかを確認しながら、声掛けして着替えをし、シーツや脱衣を急いで洗濯に出します、あまり早く声掛けして着替えて準備をしても、洗濯機が外にあるので一度外に出て洗濯機を回している間にいつの間にかパジャマに着替え、居間でテレビを見ていたはずなのに、布団の中に入っていて、「今日はいかないよ」と言われてしまう時も有ります。

短い時間内に洗濯と掃除・トイレ内にリハパンのセット全更衣・ベットメイキング・飲み水の交換等デイサービスが迎に来る前におかないといけないので大変です、

2件目の訪問先は身体1生活3の100分です、

お昼からサービスに入りますので昼食の用意をし、離床介助をし、今度は車椅子に移乗してから、食事となります、食事をしている間に流し回りの掃除をし、

その後、義歯の洗浄をし、着床してから陰洗・清拭・おむつ交換・全更衣・足浴・軟膏の塗布・等を行います、それから、脱衣の洗濯をするので、時間が足りなくなります、手順良くこなしていけないと間に合いませんが、利用者様のペースに合わせて行いますので、毎回予定通りにいくとは限りません、

時々「これもお願いと頼まれます」、その時は笑顔で「はい」、と素直に受けて即座に対応しますが、次の利用者様に遅れないように気を付けていますが、内心間に合うかなと冷や冷やします、時には帰る間際に頼まれますので、自分の中でもしかして嫌われていて、わざと長引かせているのかと思うこともあります。どうしたら時間内に仕事が終わるのか試案していると、その方から「私は時間内には終わらないよ」と言われてしまい、どの人が入っても時間オーバーしているのを聞いて、自分は嫌われていて用を言いつけているのかという、不安感は無くなりました。

3件目の訪問先は、予防60分のお宅です

この方は主に一階の居住スペースのみの掃除となります、居間・寝室・トイレ・風呂・等の掃除をしますが、いつもお話しをしながらしているので、日々色々な事を利用者様に教わっています。

お風呂は、どの利用者様も掃除をするのが大変なようです、この日は、特にお風呂とトイレの掃除をして欲しいと話されていて、お風呂のタイルがカビで大分黒ずんでいたもので、浴室用のカビハイターを使い、強烈なおいにも負けずたわしでこすっていると、大分黒ずみが取れ白くなったお風呂を見て大変喜んで下さり「一日に何回もお風呂に入るので、安心して毎日きれいなお風呂に入れるわ」と言われ、他の掃除場所もきれいになっていると喜ばれるのを見ていて、自分はこの仕事を選んで本当に良かったと思いました。

4件目の訪問先は、生活3の70分のお宅です、

最初のうちは掃除にこだわりがあるのか必ず掃除をするたびに後をつけてきていました、炬燵の回りに置いてある座布団の場所も決まっていた、違う位置に置いて怒られ、花瓶等を机の上に置いて在るものをどかして拭いてから元に戻しますが、「5ミリ元の位置からずれているので直して」と指摘されます、掃除を早く終わらせて次の事をしようとすれば、「何か手抜きをしているだろう」と言われ、遅ければ「手がノロいんだから」と言われてしまう始末です、

時々自分自身それではどうしたらよいのかと、プツンと切れそうになりますが、そこは我慢してサービスに入っていましたが、一年ぐらいたったある日仕事に慣れたせいもありますが、その利用者様から、「色々な人が来たけど、あんたが手早く掃除をしてくれるので良い」と褒められるようにまできました。

今では入るとすぐに愚痴をこぼされそれを聞いてから掃除に入るようになりました。サービスが終わりますと、「また来ておくれ〜」と言われ、帰りますがその時はとてもうれしく頑張ったかいがあるなと思います、私の名前は掃除をしてくれるおばさんです。

次は本日最後の訪問先で生活3の70分のお宅です。

このお宅は夕食を主に作ります、他にもする事が多く、冷蔵庫の中は食材がいっぱい入っていて夕方は夕食と朝食の分、朝は朝食と昼食の分を作りますが、

たまに料理が思いつかなくなり二品になると「今日は二品だけなの」と言われてしまいます。また、案外一人分は量の加減が難しく、つい何時も家族に作っている分量で考えてしまいがちです。

食事の用意ができると、ベッドから車椅子に移乗し食堂で食べている間に、洗濯物を干し・ベッド回りの片づけや居室の掃除機掛けなどをしています、食べ終われば片づけキッチン回りの掃除をすると、もう時間になってしまいます。

これで、今日の訪問は終了です

訪問の仕事を選んだ人の多くが、利用者様に対して一対一でコミュニケーションが取れる事を一番大事に思い訪問しています。現場ではいつも一人ですから、調理などで普段作ったことの無いものを、食べたいと言われると少し困ることも有ります。

ですから、ぽからでは定期的に調理の実習をして作り方の勉強会を開いています、また、訪問の仕事は日々勉強です、テレビの話題についても話ができるように、いつも心掛けています。

最初は道が覚えられなくて、迷子になり時間通りに訪問できなかったり、食材の関係で昨日と同じものを作ってしまったたり、善意と誤ってした事が、利用者様にとってはまだまだで、叱られてしまう事もありました、でも今では利用者から来客の方に、「お宅はいつもきれいにしていますね」と言われ、「ヘルパーさんに来てもらっているから」と話されていた時などはとても嬉しく思い、利用者様の色々工夫された生活の知恵を見習いながら、生活に密着したお手伝いができる事、頑張り続ければ、どんな利用者様も心を開いて下さると思い訪問時に笑顔でいてもらえるようにいつも明るく振舞っています、ぽからでは職員一同いつも明るく振舞っているので、来所された誰からも「明るく楽しい職場だね」と言われるようになりました。